

令和4年度 空家等現況調査結果について

〈調査概要〉

調査概要

令和元年度の調査同様、自治会長のみなさまのご協力のもと、市全域における空家等の発生状況等を調査し新しく空家等と判明した物件については、現地調査を実施しました。〉

調査期間

自治会調査：令和4年9月
現地調査：令和4年11月・12月

調査対象

市内自治会124の内、101自治会（分譲マンション等の自治会は除く）

〈調査結果について〉

1. 調査結果の概要

- 令和元年度空家等現況調査（以下、R1調査）では348戸の空き家が確認されており、今回の調査までに市への報告・相談等により把握していた物件が7戸ありました。
- 令和4年度空家等現況調査（以下、R4調査）で新たに判明した空き家は164戸、解消されたのは116戸でした。
- 令和元年度と比較し、令和4年度の調査後の空き家数は55戸増加し、403戸となりました。

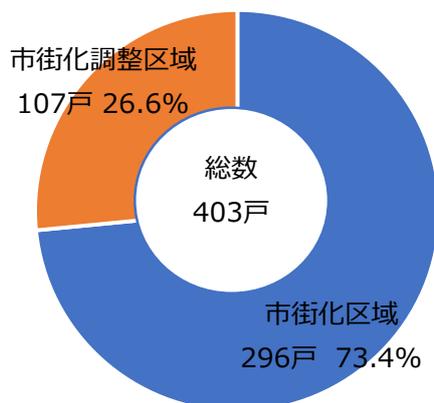
〈調査結果〉

項目	空家数(戸)
R1現況調査結果	348
R4現況調査(新規)	164
R1～R4把握(新規)	7
R4現況調査(解消)	▲116
R4現況調査結果	403

2. 区域別、学区別の空家数

- 区域別に見ると、市街化区域の空き家が総数の約73%を占めています。
- 学区別に見ると、R4調査では最も多いのは葉山東学区で85戸、次いで金勝学区62戸、治田学区56戸です。
- 9学区中、6学区にて空き家数が増加していることから、市のほぼ全域で空き家が増加傾向にあると言えます。
- 治田東、葉山、大宝学区では、新規空き家数よりも解消空き家数が上回っており、空き家数が減少しています。

〈区域別の空き家数〉



〈学区別の空き家数〉

